

NEWSLETTER

by 八戸工業高等専門学校図書館

R3年度第1回 (R3.10.1)
発行：八戸高専図書委員会
編集：M・E図書委員
レイアウト：E5図書委員

先生方と私たちM・Eコースの図書委員おすすめの本や、作家を紹介します。NEWSLETTERが本に触れるきっかけになれば幸いです。

サイダーのように言葉が湧き上がる イシグロキョウヘイ

M2-21 清水志ノ伸

17回目の夏、地方都市――。コミュニケーションが苦手で、俳句以外では思ったことをなかなか口に出せないチェリーと、見た目のコンプレックスをどうしても克服できないスマイルが、ショッピングモールで出会い、やがてSNSを通じて少しずつ言葉を交わしていく。ある日ふたりは、バイト先で出会った老人・フジヤマが失くしてしまった思い出のレコードを探しまわる理由にふれる。ふたりはそれを自分たちで見つけようと決意する。

フジヤマの願いを叶えるため一緒にレコードを探すうちに、チェリーとスマイルの距離は急速に縮まっていく。だが、ある出来事をきっかけに、ふたりの想いはすれ違っていく――。

2020年7月15日に公開された長編アニメーションの小説版で、読んでいて音楽×俳句という珍しい組み合わせの不思議な世界観に引き込まれる作品です。



反日種族主義 李栄薫

L1-34 佐藤照真

この本は、今日の日本と韓国の間にある様々な問題について、韓国側の視点から述べられています。主に取り上げられているのは植民地時代や戦時中の虐殺、慰安婦問題、徴用、現在までいたる竹島についての問題などです。

特に斬新なのは、この本の著者が、韓国人だということです。これにより、韓国の歴史や政治の実情についても知ることができます。また、この本は事実を大切にしています。資料を活用するのはもちろん、冒頭で、韓国を「嘘の国」だと述べ、何故日韓問題が解決しないのかをわかりやすく説明しています。

この本を読んで、国際的な問題について考えみてはいかがでしょうか。

線は、僕を描く 砥上裕將

M4-19 升田亮佑

両親を事故で失い失意の底から抜け出せずにいた大学生の青山霜介。ひょんなことから日本を代表する水墨画家の篠田湖山と出会い水墨の世界にのめり込む。水墨画を通して希薄だった人間関係が濃いものになり、世界に色が付くように霜介自身が成長していく。この本を読んで、水墨画に興味を湧いた。描写が美しく見たことがない水墨画が浮かぶようだった。また登場人物が全員いい人で失意の霜介が人間関係と水墨画を通して前向きに変わっていくところはホッと出来た。水墨画がテーマなだけあってか全体にゆったりと進んでいく雰囲気も良かった。



【先生からのおすすめ】

禍いの科学 正義が愚行に変わるとき ポール・A・オフィット

産業システム工学科 マテリアル・バイオ工学コース 小船 菜理奈

「救世主だったはずなのに、いったいどこで間違えたのか？」

正しいと信じて行ってきたことが、愚かな行為だったと知ったとき、自分は引き返せるのだろうかこの本を読んだら考えさせられるのではないのでしょうか。

この本を手にとったきっかけは本のビジュアルに圧倒されたからでした。「なんて攻めたタイトルと表紙なんだ……」と感心し、普段、活字にはあまり触れない生活をしていますが、科学者の一人としてこの本を読まなければという義務感に駆られました。この本では著者が医師、科学者、人類学者、社会学者、心理学者、懐疑論者の人々や著者の友人たちに、その人が考える世界最悪の発明品リストを作ってもらい、その中から現在にも影響が残り続けている7つの発明が選ばれ、それらについて各章立てて述べられています。その7つの中から、ここでは『化学肥料から始まった悲劇』について、少し紹介させていただきます。皆さんは“ハーバー・ボッシュ法”は聞いたことがありますよね？（特に、Cコースの方は知ってくれていないと困ります……）空気中の窒素からアンモニアを合成できる方法で、現在でも主流のアンモニア製造法になります。この方法を開発したのがこの物語の主人公、フリッツ・ハーバーです。彼は『元素からのアンモニア合成』研究の業績が認められて、1918年にノーベル化学賞を受賞しました。このアンモニア、何に役立っているかといいますと、肥料の原料なのです。つまり、我々が生きるために必要な食糧を大量かつ安定的に供給するために肥料は不可欠なのですが、それはハーバーのおかげということです。この業績で、ハーバーは世界の食糧危機から人類を救い、産業の発展に大いに貢献し、科学者としての地位も名誉も確立しました。しかしながら、その業績の裏では最悪の結果も招いてしまいました。それは肥料による環境汚染とアンモニアからの爆薬生産です。これらは世界に甚大な被害をもたらしました。過剰施肥による土壌や地下水汚染、酸性雨などの環境汚染は未だに解決できていませんし、爆薬は戦争で使用され、何の罪もない多くの尊い命が奪われました。これは紛れもなく科学がもたらした“禍い”なのです。さらに、ハーバーにはこんな異名があります。「化学兵器の父」です。なぜ、こう呼ばれるようになったのかは、この本を手にとっていただければわかると思います。科学は何のためにあるのか、それは、自然を知るため、平和のため、持続的発展のため、社会のため、だと高専の学生時代に学びました（科学技術社会論だったと思います）。裏を返せば、それ以外のいずれの目的のためにも科学を利用してはならない、ということを決して忘れてはいけないのだと思います。この本では化学肥料のほかに、アヘン、トランス脂肪酸、優生学、ロボトミー手術、DDT禁止、メガビタミン療法について、そして最後には過去から学ぶ教訓が述べられています。コロナ禍の現在、さまざまな情報や憶測が飛び交っていますが、いまこそ過去の禍いから学ぶべきときなのではないのでしょうか。



NEWSLETTER

by 八戸工業高等専門学校図書館

R3年度第1回 (R3.10.1)
発行：八戸高専図書委員会
編集：M・E図書委員
レイアウト：E5図書委員

FRIDAY, OCTOBER, 1, 2021

手を伸ばせ、そしてコマンドを入力しろ 藤田祥平

E5-25 神優音

あと10年早く生まれていたら似たような運命を辿る高専生は多いかもしれません。インターネットが普及し始めた中で、文化の海であるそのネット世界にどっぷりとのもりこんで、生活をしている様子が鮮明に描かれています。

うつ病になりながらもゲームという2次元と現実世界という3次元の境界が曖昧になりながらも走り続ける男。その男はただその時の一瞬を生きるために、楽しむために進み続けるのです。共感するところも多いと思いますので、ぜひ読んでみてください。



この本を盗む者は 深緑野分

L2-23 越川葉澄

御倉館は、読長町にある書物の蒐集家である御倉嘉市によって建てられた巨大な書庫である。彼の死後、盗難事件によって御倉館は閉ざされてしまう。主人公の深冬は、祖父の御倉嘉市とは対照的に本が大嫌いだった。ある日、何者かに御倉館の本が盗まれ、本(ブック)の(・)呪い(カース)の発動によって深冬は物語の世界に閉じ込められてしまう。この世界から抜け出す方法はただ一つ、本泥棒を捕まえること。ヒントを得るために嫌々本を読む深冬だったが、いくつもの本の世界を冒険するたびに、気持ちの変化が現れてきて__。



本への愛があふれる2021年本屋大賞ノミネート作品！これを読めばもっと本を読みたくなることまちがいない！

余命1年と宣告された僕が、余命半年の君と出会った話 森田 碧

E2-23 田中葉琉

主人公-秋人は高校生にして余命1年と告げられる。周囲の友達には隠し、何事もなく学校に通っていた。そんな時、病院で絵を描く一人の女の子-春奈と出会った。半年-それは春奈が生きることが出来る時間。秋人は自分の余命を隠し毎週のように春奈の元に訪れた。気がつく秋人は、もうすることは無いと思っていた恋をし、春奈と話すことそれが生きる意味になっていた。

この2人の期限付きの恋、途中からは涙が止まりません。秋人の心を変えた春奈。最後に明かされる春奈の気持ち、2人の周りの人たち、ずっと2人のそばにあったガーベラの花。読んでよかった、そう思える作品です。厚くないので、あまり本を読まない人でも読みやすいと思います。ぜひ、ハンカチを用意して読んでみてください！



星の王子様 アントワーヌ・ド・サン＝テグジュペリ

E4-31 服部慎司

パイロットである主人公がサハラ砂漠を飛んでいるとき、飛行機が故障し、砂漠に不時着してしまいます。その時に星の王子様に出会います。王子様は、普通の家くらいの大きさしかない星より1輪の薔薇から逃げていたところ地球にたどり着いたようです。地球に来た王子様は薔薇が何千本も咲いているのを見かけ薔薇がどこにでもある普通の花であると気づきますが、王子様の星に咲いていた薔薇とは違うことに気が付きます。話は難しいですが人生の大切な教えを説いてくれる面白い作品です。他にもエピソードがあるので是非読んでみてください。



人間失格 太宰治

M5-19 館海斗

私が今回紹介する本は太宰治の人間失格という作品です。これは太宰治の作品の中でも私が一番好きなものです。この作品は太宰治の遺書とも言われている作品であり、読んでいると生きるということは何なのか考えさせられる作品です。

少し重い作品であるのでオススメはしにくいのですが読書好きの方には是非一度読んで欲しい作品です。そこまで長い作品ではないので隙間時間などに読んでみてください。



ジョーカー・ゲーム 柳 広司

M3-11 熊谷洋飛

「敵をだますにはまず味方から」とよく言われているが、この作品を読むとそれに近い感覚に陥ります。アニメ化もされているがよりスタイリッシュな面白さを堪能するには、原作を読むのがよいと思います。敵国の裏のまた裏をかく頭脳戦は、読者をも巻き込みます。それぞれの短編全てが異なる人物の目線で語られ、それがスパイ目線なのか、それとも全然関係ない部外者なのかそれすらも最後まで分かりません。ぜひ読んで、最後の最後に「騙された！」と心地いい敗北感に身をゆだねてください。



春琴抄 谷崎潤一郎

E3-25 西田士道

この作品は大阪の薬種商の娘で、9歳の頃眼病によって失明した春琴と彼女の身の回りの世話をしていた丁稚の佐助の奇縁を描いた物語です。改行、句読点、鉤括弧などの記号文字が、あまり使われていない特殊な文体で書かれた、狂信的なほど愛する佐助と春琴の奇妙で美しい恋物語を皆さんも1度読んでみてはいかがでしょうか。

